

【日本の大学】第47回——秋田大学：教育、資源、地域医療に力点

東北地方・秋田県の県庁所在地秋田市に1949年に設置された国立大学が秋田大学である。第2次大戦前からあった秋田師範学校、秋田青年師範学校、秋田鉱山専門学校を母体として設立された。基本理念として（1）国際的な水準の教育・研究を遂行する（2）地域の振興と地球規模の課題の解決に寄与する（3）国内外で活躍する有為な人材を育成する——ことを掲げており、手厚い就職支援や地域への貢献などで近年、大学への評価が高まっている。



秋田大学正門

以下、秋田大学のホームページなどから大学の歴史や現況をみていこう。

現在、秋田大学は二つの師範学校を淵源とする教育文化学部、鉱山専門学校からの流れをくむ理工学部と国際資源学部、そして県立女子医学専門学校(1945年設置)や県立病院(1947年設置)設置を受けて1970年に開設された医学部の4学部がある。

秋田師範学校の始まりは1873年に秋田市上中城町の旧城跡内に開設された秋田伝習学校までさかのぼる。その後秋田太平学校、秋田県師範学校、秋田師範学校と名を変え、秋田女子師範学校を合併したうえで、1943年に秋田師範学校となって終戦を迎えた。秋田青年師範学校は1924年の秋田県立実業補習学校教員養成所として開設され、秋田県立青年学校教員養成所と改称した後、1944年に秋田青年師範学校となった。

秋田鉱山専門学校は1910年に採鉱学科、冶金学科の2科で創立され、その後、鉱山機械学科、燃料学科の増設、機械技術員養成科の新設、電気科、金属工業科の設置、採油科、採鉱科の増設などを経て終戦となった。

秋田大学が設立された時は、二つの師範学校を統合した学芸学部と、鉱山専門学校からの鉱山学部の2学部でスタートした。



キャンパス風景

教育現場と密接な連携

学芸学部は、1部(4年課程)と2部(2年課程)を設け、それぞれに中学校教員養成課程(甲類)と小学校教員養成課程(乙類)を置いた。学芸部と教育部に分かれていて、学芸部は人文科学科、社会科学科、自然科学科の3科があり、秋田市保戸野にキャンパスが置かれた。教育部は教育学科、職業学科、芸能学科、体育学科の4学科で中通にキャンパスがあった。

1962年には、甲類を中学校・高等学校教員養成課程にし、乙類は小学校・幼稚園教員養

成課程へと改称したほか、キャンパスは中通と保戸野から手形（いずれも秋田市）へと移転している。

1967年には、学芸学部を教育学部と改称、さらに1998年には教育学部を教育文化学部へと改称するとともに、組織を学校教育課程、地域科学課程、国際言語文化課程、人間環境課程へと編成を改めた。2014年には再改組して学校教育課程と地域文化学科の1課程1学科で構成することとした。

学校教育課程は、教育現場と密接な連携を図りながら、地域の教育の活性化に貢献する教員の養成を図る。小学校教員の養成は主として「教育実践コース」、小学校から高校まで連携して英語教育の実践する「英語教育コース」、理科、数学の専門的な知識・技能の習得や理科数学の面白さを子供に伝える教員を養成する「理数教育コース」、特別支援学校などでの教育を実践できる教員を養成する「特別支援教育コース」、幼稚園や保育所の教員・保育士の養成を主とする「こども発達コース」に分かれている。

地域文化学科では、多角的な視点から地域課題の解決に取り組み、地域活性化に貢献する人材の養成を目指す。秋田を含むさまざまな地域や国の社会・文化・人のあり方について社会科学と人文科学の観点から総合的に学び、「グローバル」と「ローカル」の双方向的視点から地域を理解することで、その課題解決のための知識や考え方を身につける。フィールドワークや学生参加型授業によって、地域の諸課題を見出し、さまざまな人々とのコミュニケーションや協働といった「体験」を通じて、地域の実情に即した解決方法を学んでいく。

1年次では地域を理解するための基礎的知識・スキルの獲得を図る専門基礎科目や法学、経済学、社会学概論などの基盤科目を学ぶ。2年次以降は地域社会コース、国際文化コース、心理実践コースに分かれて専門性を高めていく。



秋田大学竿燈会、秋田竿燈まつりに連続 49 回目の出場

類をみない国際資源学部

鉱山専門学校の流れをくむ鉱山学部は、鉱山学科、冶金燃料学科、鉱山電機学科の 3 学科でスタートした。その後、冶金学科、燃料化学科(冶金燃料学科から分離増設)の設置 (1955 年)、鉱山機械学科、鉱山電気学科(鉱山電機学科から分離増設)の設置(1959 年)など、学科の増設、解消が続いた。大学院にも鉱山学研究科(修士課程)が設置(1965 年)されたあと、専攻課程が増設され、1994 年には博士課程も設置されている。

1998 年には、鉱山学部を改組して、工学資源学部となった。地球資源学科、環境物質工学科、材料工学科、情報工学科、機械工学科、電気電子工学科、土木環境工学科の 7 学科だった。2008 年には環境応用化学科、生命科学科 (環境物質工学科の改組・再編) を設置した。

2014 年には、工学資源学部を改組して理工学部と国際資源学部の 2 学部に分かれた。理工学部は、生命科学科、物質科学科、数理・電気電子情報学科、システムデザイン工学科の 4 学科で構成している。



【理工学研究科】学生自主プロジェクト「電動ビーグルプロジェクト」が 2019 WGC・ソーラーカー・ラリーに挑戦しました

国際資源学部は、他の国立大学には類をみない特色のある学部であろう。日本だけでなく世界が、金属・非金属資源、石油・天然ガス資源などで直面している資源問題を解決するために地球史解読による資源形成メカニズムの解明から、資源探査、開発、リサイクル及び環境保全までを対象とする理工系分野と、資源を取り巻く経済、国際情勢などの資源政策的な諸問題を対象とする文系分野から構成されている。こうした資源問題解決のための世界最先端教育・研究によって、世界で活躍できる資源スペシャリストを養成する。

レアメタルやレアアース、シェール革命をもたらす技術革新など資源学分野には多くの課題がある一方で、世界を舞台に活躍できる若手の技術者不足という現状がある。資源系企業からは、「資源探査・開発を担う高度な技術力を持った人材」や「資源国で交渉・折衝ができる人材」を求める声が高まっている。こうした要請に応えていこうというのが、この学部設立の趣旨であろう。

これらを実現するため 3 コースを設けている。世界の資源情勢を正確に分析・考察する力や資源国との交渉力を身につけた資源戦略を担う人材養成を図る「資源政策コース(文系)」世界を対象にした資源分布の予測と新たな地球資源の可能性を探究する最先端地球科学分野の技術者・研究者を養成する「資源地球科学コース(理系)」、限りある地球資源を持続的か

つ有効に活用するため、地球環境に配慮した資源開発と資源循環系社会の形成に寄与できる技術者・研究者を養成する「資源開発環境コース(理系)」である。

文理融合教育を目指すとともに国際的に活躍できる資源人材育成のために国内外の研究機関や資源系企業と連携して最先端教育を実施する。英語教育特別プログラムを1年次から2年次前半の間に実施し、英語の基礎力を修得し、2年次以降の英語での専門教育科目の受講に備える。3年次後半には全員が海外の資源フィールドで資源学の最前線を実体験する。



冬のキャンパス風景

第2次大戦後初の医学部

医学部は、県立中央病院を国に移管、大学の附属病院として1970年に開設された。第2次大戦後としては初の医学部である。医学部は医学科のほか、1978年には医学部附属看護学校を開設、1989年に秋田大学医療技術短期大学(3年課程)として医学部に併設された後、2002年に医学部保健学科(4年課程)に改組された。

大学のキャンパスはいずれも秋田市内にある手形、本道、保戸野の3か所である。本部のある手形キャンパスには教育文化学部、理工学部、国際資源学部の建物が集まっている。本道キャンパスは、医学部の諸施設や附属病院などがある。保戸野キャンパスには附属の幼稚

園、小中学校、特別支援学校がある。

基本理念にあるように大学では、地域振興・支援と国際交流に力を入れている。地域の面では、2016年に「地域創生センター」を設置、地方創生に取り組む地(知)の拠点大学として、地域との協働による地域振興策への取り組みや地域防災などの研究・支援並びに地域産業の成長に資する研究を推進し、地域を担う人材育成の推進と地域の産業振興、活性化に貢献する、としている。



秋田大学医学部附属病院

国際交流の面では、2008年に「国際交流センター」を設置、国際的に開かれた大学、魅力のある大学、競争力のある大学に向けた学内拠点として位置づけている。2011年には「秋田大学国際戦略」を策定し、国際化を進めるべき四つの領域を設けた。国際的人材育成、国際的学術研究、国際連携協力、国際交流体制の整備でそれぞれ国際化を進めていく。

外国人留学生は、現在200名を超える学生が学んでいる。留学生のサポート体制としては、国際課で相談を受け付けているほか、日本人学生が、日本語の指導、学修、研究の指導助言などをしてくれるチューター制度がある。留学生制度としては、国費留学生のほか、学

部留学生、研究留学生(大学院レベル)、日本語・日本文化研修留学生(学部レベル)がある。

学生数は、学部が 4391 名、大学院が 753 名、外国人留学生が 214 名、教員数は 534 名である(2021 年 5 月現在)。



2019 年の卒業式

現在の学長は山本文雄氏である。2016 年に学長に就任、20 年に再任され、現在 2 期目である。鳥取大学医学部卒の医学博士で、同大学助手、国立循環器病センター技官、秋田大学医学部教授、同学長補佐、副学長、理事などを経て、現職。

文：滝川 進

写真：秋田大学 HP&FaceBook